

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201339		
法人名	社会福祉法人 伏古福祉会		
事業所名	グループホーム藤苑		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2-34 (電 話) 011-784-2900		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月5日	評価確定日	平成22年4月15日

【情報提供票より】 (22年 1月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	14.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	45,000/35,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 22,000円 暖房費(11~3月) 5,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要 (1月 22日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	1 名	要介護 2	6 名
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名
要介護 5	5 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	勤医協中央病院、八田内科、三浦医院、伏古歯科、小林皮膚科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の中で特別養護老人ホームやデイサービスなど既に福祉に取り組んでいる実績がグループホームの理解と協力に活かされて、信頼のもとに地域と一体化した取り組みがいたるところに見られます。介護度の高い利用者に寄り添い、個別に配慮した利用者本位に支援がされ、明るく笑いが耐えない居心地のよいホームです。開設から家族会を設置して家族とともに、看取りの体験もあり、運営推進会議も定着しています。日々の食事に配慮があり、食事のボランティアによって美味しい食事が提供されて、利用者の楽しみになっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	災害対策の取り組みは、年2回の火災訓練の実施の際には地域の協力を依頼し、運営推進会議においても話し合いを重ねています。法人内の協力体制も充実しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	自己評価についてはその意義を理解し、職員全員で各項目について検討して改善点を見出し取り組みを検討しています。また、外部評価の終了後には改善に向けた取り組みが期待されます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議では地域の代表者、家族会代表者と地域包括支援センター職員が出席し、ホームの報告を詳細にしています。そこでの意見は職員で共有して運営に活かしています。しかし、議事録の整備が十分でなく、更なる取り組みを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	開設時から家族会を組織して年に数回家族の集まりを実施しています。また、家族アンケートで意見を集約してそれらを運営に活かしています。さらに面会時には気軽に声かけをしています。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	ホームのみならず法人全体が地域との関わりを重視し、町内会の行事やホームの夏祭り、さらに日常的な様々なボランティア、近隣中学校の生徒の受け入れ、実習生や見学者の受け入れなど、地域との付き合いが自然体で継続されています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「和顔愛語」を基本として、ユニットごと独自に毎年の目標を職員の話し合いで決め、利用者に添った理念をつくりあげています。地域と一体化した取り組みを日頃から実践していますが、明文化されていません。	○	掲示されたり、運営推進会議で示される理念の中に、読んでわかる地域密着型サービスの理念が含まれることが求められます。今後の取り組みを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員、さらに日常的に関わるボランティアも含めて理念の実践に向けて取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームのみならず法人全体が地域との関わりを重視し、町内会の行事やホームの祭り、さらに日頃のボランティア、近隣中学校の生徒の受け入れ、様々な実習生や見学者等、地域の付き合いが自然な形で継続しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年実施している評価についてはその意義を全職員で理解し、自己評価については各項目について話し合い、時間をかけて改善点を見出して取り組もうとしています。		

札幌市東区 グループホーム 藤苑

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の代表者のみならず、家族会代表者と地域包括支援センター職員が出席し、ホームの報告を詳細にしています。そこでの意見は職員間での共有としています。しかし、記録が不十分で確認がしづらい状況です。	○	運営推進会議に配布された資料の添付や内容の記録が不十分です。外部評価についても議題として話されていますが、確認が困難で記録の整備を今後期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは諸連絡はもちろん、分からないことは相談して指導をいただきながら、ケアに活かしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「藤苑新聞」は年4回発刊し、毎月はユニットごとに「たより」を職員が作成し、利用者一人ひとりの状況を記載して様子が分かる通信を家族に送っています。また、職員の異動や、行事のお知らせもこまめにしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設時から、家族会を組織して、年に数回家族の集まりを実施しています。また、家族アンケートで意見を集約しています。それらは運営に役立てています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は出来るだけ少なくし、利用者と家族の不安はないように配慮しています。さらに複数の職員が関わり、ダメージを防ぐようにしています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	区内の隔月開催される「事例検討会」は他の同業者とともに学ぶ場として職員は参加しています。法人では年に数回テーマを決めた研修があり、外部研修も含めて学びながらケアの向上を目指しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは区内で2ヵ月毎に、合同の事例検討会に出席して学びながら、ケアに活かしています。また、交流会にも参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望してから、見学や面接を行ない、納得のいくかたちで入居となるように馴染みの関係作りに努力をしています。出来るだけ家族の応援をいただいてホームの理解を深めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の場所として掃除や食事をし、利用者に寄り添って、それぞれの『生き方』を職員は学び、コミュニケーションを通じて喜怒哀楽を共有しています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や情報シートから一人ひとりの希望や意向を考え、職員は定期的に話し合い検討し、日々の暮らしを支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者、利用者の担当職員が中心となり毎月モニタリングを行ない、更新時は家族や関係者を交えて見直しをしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヵ月の期間で更新しています。しかし、緊急時には変化に応じて家族と話し合いをして、利用者本位に見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況で通院が困難な場合は職員が引率して送迎介助をしています。さらに買物の外出やお墓参り、元の住居などを見て回るなど、柔軟な支援をしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは数箇所の協力病院と連携し、利用者と家族の希望によって安心した医療が受けられるように支援しています。また、往診の医師は週2回ホームを訪問しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「藤苑における看取り介護に関する指針」を作成し、利用開始時に家族と契約をしています。終末期のケアを過去に数名体験し、家族の信頼をいただいています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを守り、声かけや対応など細かく注意して一人ひとりの尊厳を大切に、常に尊敬の念をもって支援しています。書類の取り扱いにも注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの居間は一人ひとりの居場所が取れるような広さがあり、集団で体操をしたり、歌をうたったり、テレビを見たり思い思いに過ごしています。ゆったりと時間が流れるようなアットホームです。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって食事は大きなウエートを持ち、鍋を囲んだり、おしゃべりしたり、食事のボランティアを交えて、利用者好みのメニューで楽しく食事を職員とともにしています。準備や片づけにも参加しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂好きな利用者は希望の時に入浴し、介護度の高い利用者には複数の職員が介助し、概ね週2回の入浴を支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの中で各自が出来る範囲で役割をもち、生き生きとした場面作りを支援しています。カメラ好きな利用者には写真館を設定して発表の場を提供しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、外出の機会は多く確保されています。年間行事に屋外レクリエーションもあり、利用者の楽しみとなっています。買物や散歩は日常的に支援し、雪まつりや温泉旅行も実施されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は「鍵をかけること」の弊害を認識し、常時日中は開放されています。夜間のみ施錠しています。しかし、利用者の状態や職員の目が届かない場合は止むを得ず施錠する時もあります。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	火災訓練は消防署の協力をいただいて年2回実施しています。敷地内にある法人関係機関と地域の方々に連絡をして日頃から協力がいただけるように連携を図っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が作成した献立表を法人の栄養士が点検し、栄養面や水分量など個人別に摂取量を記録して把握しています。一人ひとりに対応して支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームとして利用者の動きが把握できる工夫された間取りで、くつろぎの場所があちこちにあり、温かい雰囲気に住みやすいホームです。利用者の特技を活かした写真館もあり、掲示物も馴染みになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は押入れが設置されて使いやすく、利用者が個性的に家具を配置して、落ち着いた安心出来る居場所になっています。		

※ は、重点項目。